

# ウマノアシガタ



(撮影：桐原真希)

倭にて

法勝寺川の桜が最盛期を過ぎる頃、その土手には眩しいくらい黄色い花が群れ咲きます。地元の方は、「キンポウゲ」と呼ばれていましたが、これは別名で標準和名はウマノアシガタと言います。すでに江戸時代には、この名で知られていたようで、漢字で「馬足形」と書きます。由来は諸説あり、蹄鉄のなかった時代、長距離を移動する馬の蹄を痛めないために、馬用の草履が作られたそうです。その草履の形とこの花の形が似ていたことから、名付けられたと言われています。

ウマノアシガタは、古来より日本全国に分布している在来種です。観察会の時、この花に毒があることをお話しすると、参加者の方は一気にこの花の印象が変わるようで、怖がったり、触っても大丈夫かと心配されたりする方もいらっしゃいます。この花のグループであるキンポウゲ科は、有毒植物が多いのですが、眺めたり、軽く触れたりする程度は全く問題ありません。

4〜5月の短い花の時期を楽しみましょう。

普通、この花は5枚の黄色い花びらをつけます。光沢のあるツヤツヤした花弁は、まるでロウ細工のような雰囲気です。ウマノアシガタには、たまに花びらの多いタイプが咲きます。何かの拍子で、雄しべになるはずだった細胞が、間違つて花びらになってしまったものです。私は、2、3回ほど、花びらが7枚のウマノアシガタを見たことがあります。他にも、6枚、8枚、9枚と色々な枚数がインターネットで紹介されています。これを全部写真に撮りたいな、と毎年気になっていますが、なかなか出会えません。桜吹雪の中のウマノアシガタ、お花見の時に花びら違いの宝探しをしてみませんか。



花びらが7枚のタイプ

自然観察指導員 桐原真希